

復讎  
大  
全

筆  
純  
山  
物  
語

東  
里  
山  
人

前  
編  
後  
編

207  
712

京  
大  
蔵  
書



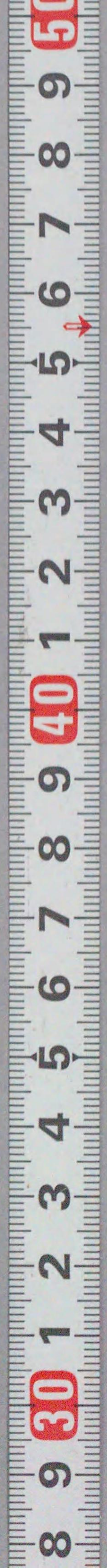
国立国会図書館 復讎大全筆の山物語 : 2編6巻 207-712

ガラス使用





リ  
ニ  
シ  
ル  
ハ  
カ  
ク





支醒々世山東の羽京傳先生のよく頼敏の学  
 とを母の故きと温工此の聖法はる小  
 嶽采採して鳳凰がまの着段は遊び難  
 山の味の内申子なるから先生のいし書と交結本  
 筆子終る也。号と半滄浪のこんはとちのて。  
 鋪其糟歎を確而後子卓業の皓々の白きを  
 味小を既ふん中の得使を作して古今復讐言  
 大全と號する奴い京橋馬子の作者  
 東里山人ト云





九例

一 おのれを女の法にまかせて影をばしてみづうは夢の如く  
 ちまよふひん入るまは舟の奥の網よりぬきしを  
 えんもいづれかひしれど圓より洗筆の交りて  
 他の涙のさかぬれはしと略これを経てしる  
 一 志の編ハ帯がらけちね付成り羽がく又かたると  
 側は安きよして耳はあねばさししを心まを氣のさし  
 といふあしぬよしてまこしも虚誕妖妄の形を  
 加へてそのまぬまをまをまをりして吾黨乃  
 小子子一あしむるに

それとめあうまの  
 ちまよふひん入るまは舟の奥の網よりぬきしを  
 えんもいづれかひしれど圓より洗筆の交りて  
 他の涙のさかぬれはしと略これを経てしる  
 一 志の編ハ帯がらけちね付成り羽がく又かたると  
 側は安きよして耳はあねばさししを心まを氣のさし  
 といふあしぬよしてまこしも虚誕妖妄の形を  
 加へてそのまぬまをまをまをりして吾黨乃  
 小子子一あしむるに







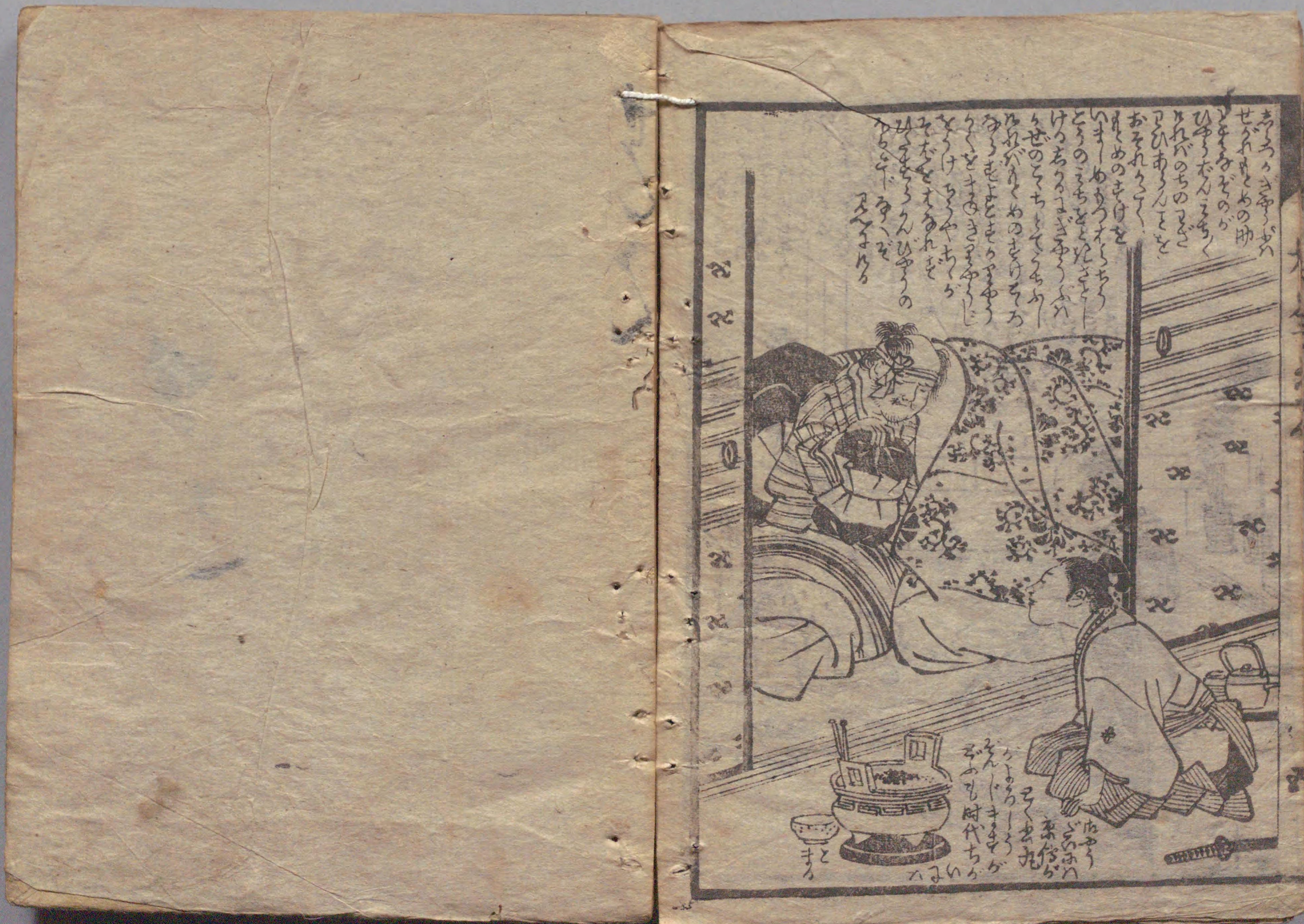
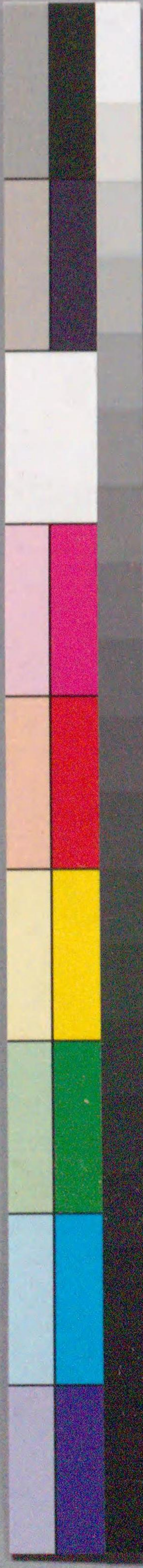












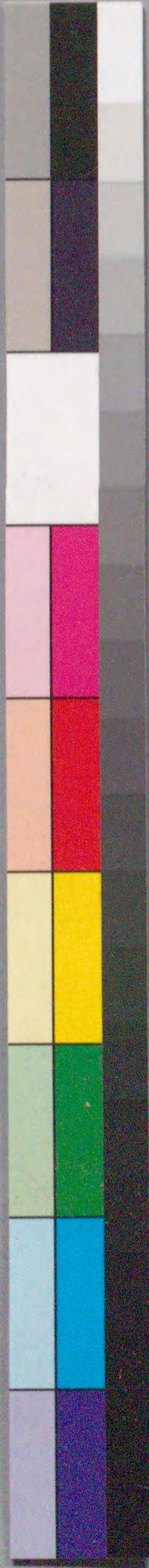




国立国会図書館 復讐大全筆の山物語：2編6巻 207-712

ガラス使用





国立国会図書館 復讐大全筆の山物語 : 2編6巻 207-712

ガラス使用

















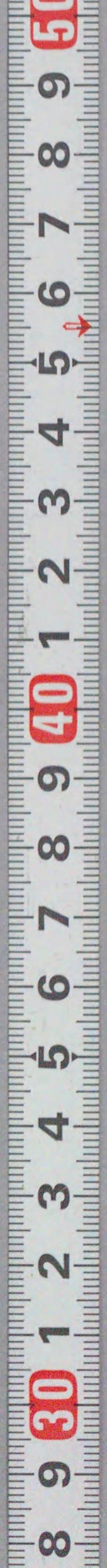




























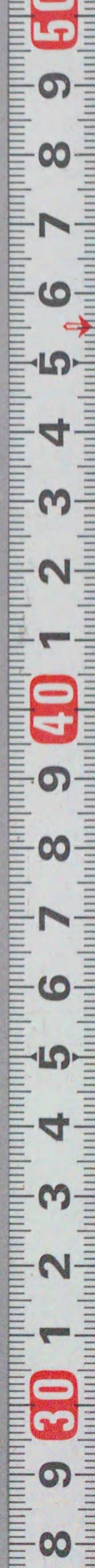














後編 三 冊











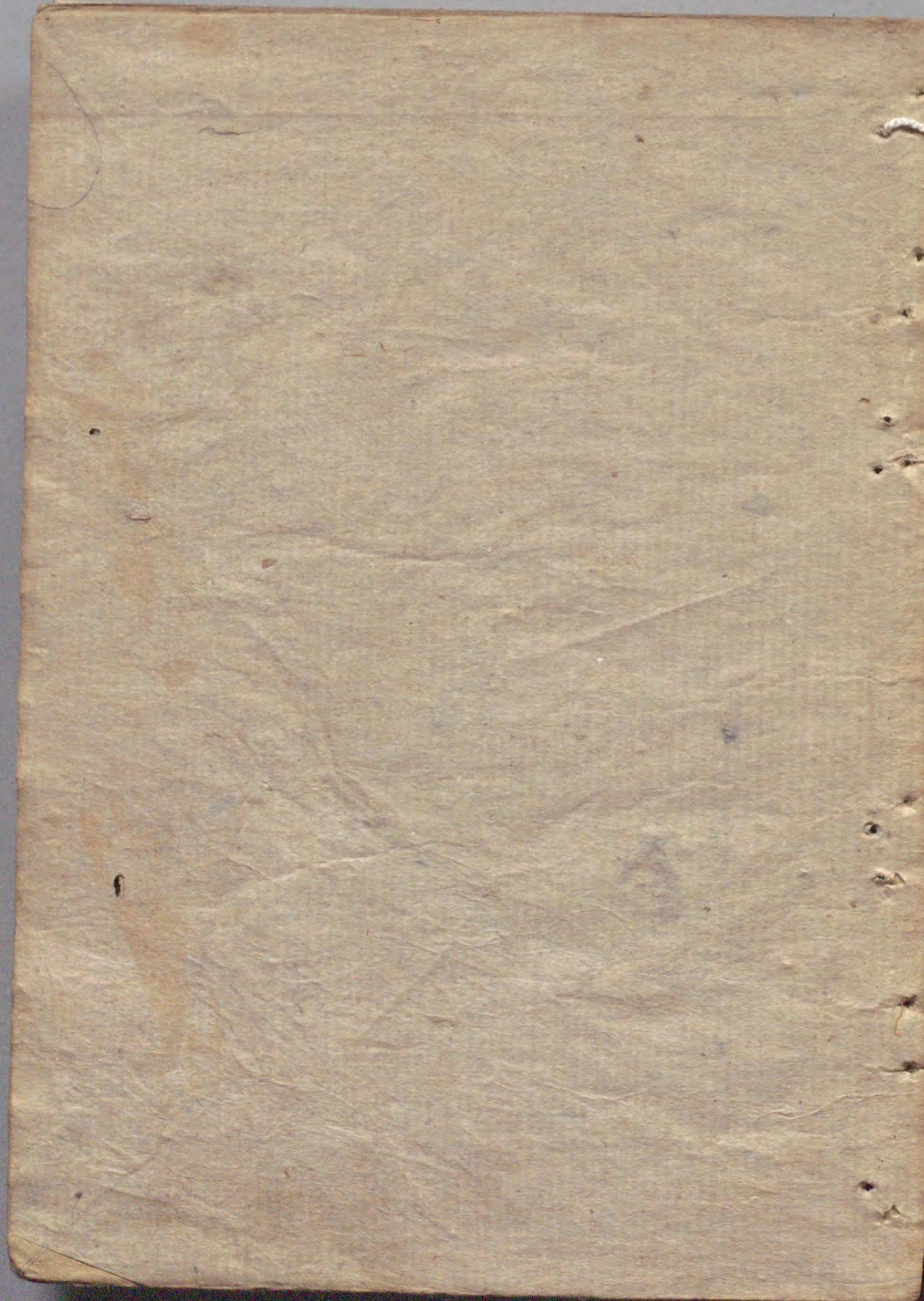
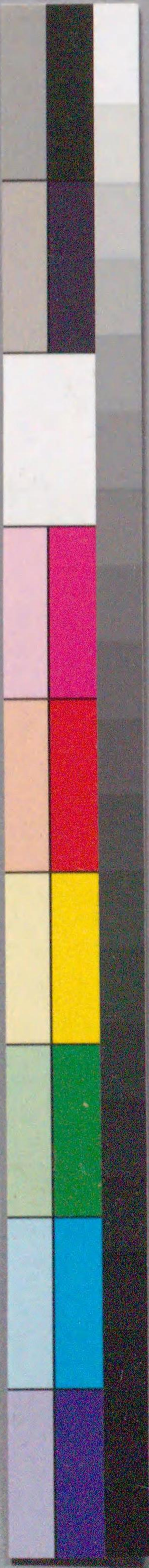






























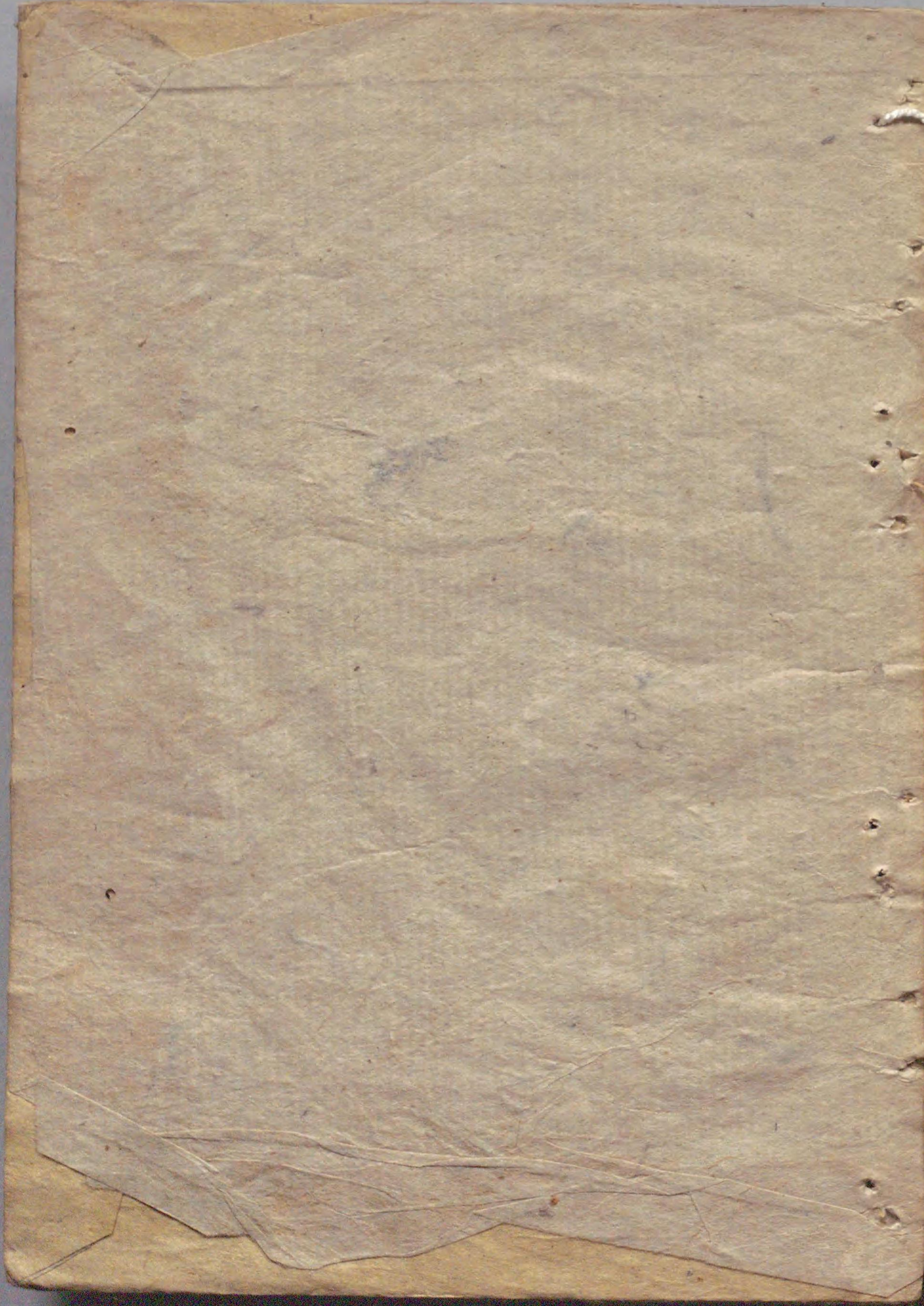




大正後記







Handwritten Japanese text in kuzushiji style, located above the illustration. The text is arranged in several vertical columns, starting from the right side of the page and moving towards the left. The characters are small and densely packed.



























それより三人  
 平太が公家と  
 うれしくさ  
 りんどうや  
 ちのて  
 ぐん八と  
 ままがせまる  
 ちのちの  
 つしもあし  
 ぐん八ちの  
 へまがせまる  
 いぐるるま  
 まめをのぞ  
 としちがら  
 きんせいの  
 うさのい  
 ぐん八あ  
 ぬき合せ  
 てふうり  
 ちのちの  
 さ八出  
 せん年  
 ここのめ



それより三人  
 平太が公家と  
 うれしくさ  
 りんどうや  
 ちのて  
 ぐん八と  
 ままがせまる  
 ちのちの  
 つしもあし  
 ぐん八ちの  
 へまがせまる  
 いぐるるま  
 まめをのぞ  
 としちがら  
 きんせいの  
 うさのい  
 ぐん八あ  
 ぬき合せ  
 てふうり  
 ちのちの  
 さ八出  
 せん年  
 ここのめ

大分  
 七九







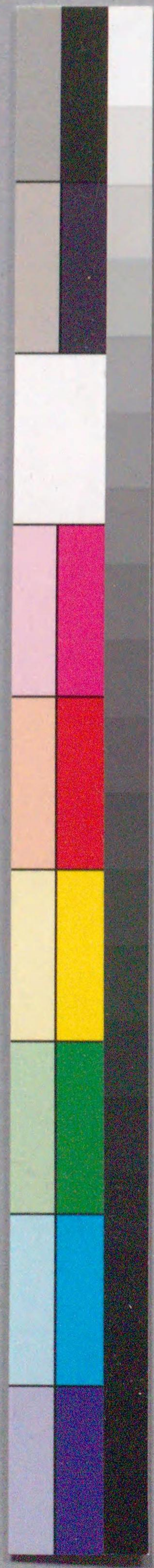


207  
712

山人五







国立国会図書館 復讐大全筆の山物語 : 2編6巻 207-712

ガラス使用

